

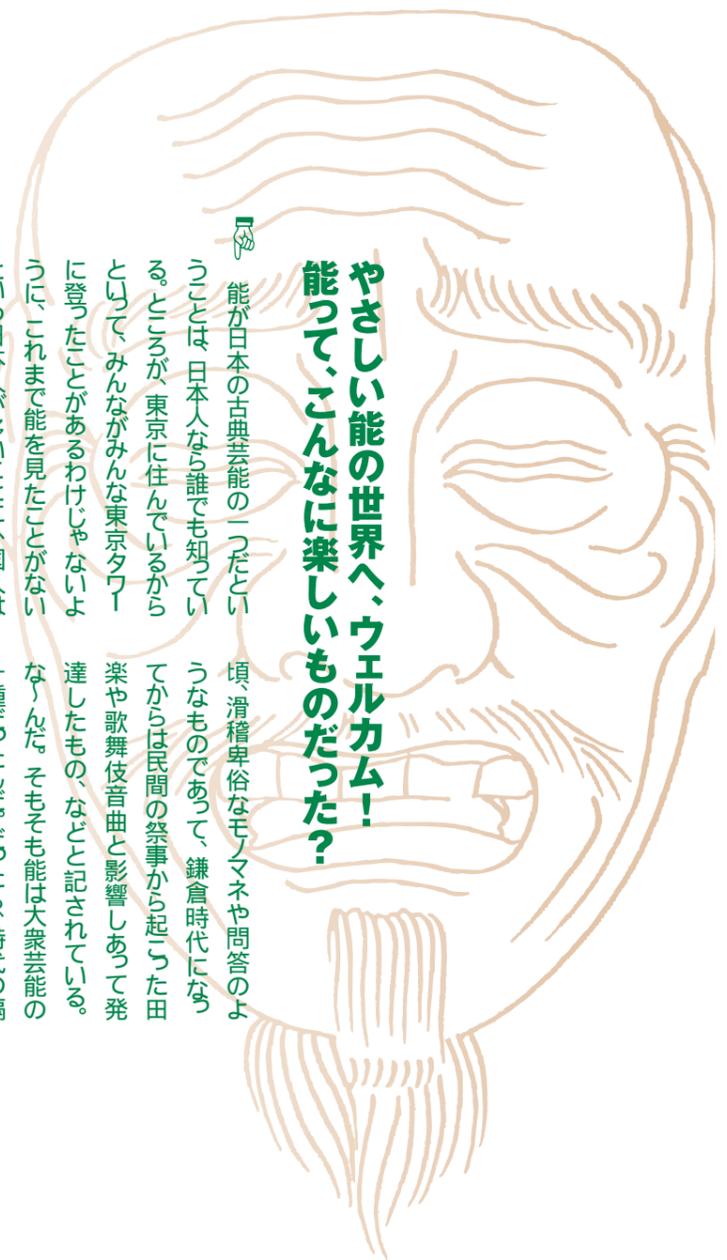


グランシップ静岡 能楽鑑賞教室



■PM12:50開場 PM1:30開演
 ■中ホール・大地
 ■一般前売2,500円(当日3,000円) 大・高校生前売800円(当日1,000円) 小・中学生前売400円(当日500円)
 ■全席自由(税込)

プログラム ・能の話
 ・能面の付け方[実演]
 ・能装束の着方[実演]
 ・踊りの習い[発表]
 ・仕舞
 ・『融』(トオル)後半部分の鑑賞



やさしい能の世界へ、ウエルカム！
 能って、こんなに楽しいものだった？

能が日本の古典芸能の一つだということとは、日本人なら誰でも知っているところだが、東京に住んでいるからといって、みんながみんな東京タワーに登ったことがあるわけじゃないように、これまで能を見たことがないという日本人が多いことに外国人は結構オドロクらしい。それでも東京タワーのほうに登ろうとさえ思えば、すぐにならで簡単に登れるわけだし、登ったら登ったでそれなりに楽しめるわけだけれど、能となるとそうカンタンにもいかないからねといつてことになる。よくわからない、高尚すぎる、ちょっと難解だよね、と学校の教科書で、能は観阿弥・世阿弥父子によって大成されたと言われて、でも、それはあくまでも大成であって、始めたのは彼らじゃない。ならば、一体タレ、といつうわけでその道の書をひもといてみると、能のものと異なる猿楽は、平安時代の終わり頃、滑稽卑俗なモノマネや問答のようなものであって、鎌倉時代になつてからは民間の祭事から起つた田楽や歌舞伎音曲と影響しあつて発達したもので、などと記されている。な、んだ。そもそも能は大衆芸能の一種だったんだ。だったら、時代の隔たりというハンディキャップはあるにせよ、能は現代の大衆にもっと歓迎されていい。そう思うんだけど。

そこで、能が難しいといつうのなら、難しい能の話をしよう、といつことになった。実演などもいろいろ多彩に盛り込んで、肩のこらない楽しいメニューにしよう、と。それが今回、中ホールで開かれる、能楽鑑賞教室だ。

講師を迎えるは、観世流能楽師である観世芳宏、観世芳伸の両氏。と言つても、二人には二人とも現在の観世流の二十六世宗家観世清和の弟君、といつう加えておこ

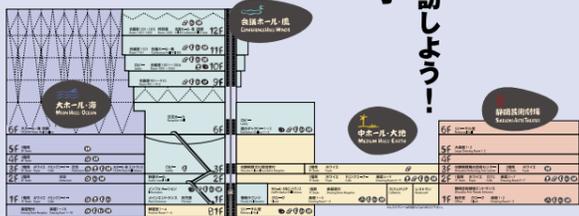
装束や扇、古文書、写真などが展示されているので、そちらのほうもぜひ。滅多にないプログラムだけに、これはかなりオススメである。



【融】 あらすじ

都へ上つた旅僧が六条河原の院を訪れると、そこへ田子を抱いた老人がやってくる。海辺でもないのに汐汲みに出掛ける様子に旅僧がそのわけを尋ねると、老人はこの河原の院は塩釜の浦を写した海辺なのだといふ。昔、風流を愛する源融大臣は陸奥塩釜の浦が大のお気にいりで、その浦を模してここに造園し、海水を運ばせ、塩を焼き、風流を楽しんだとのこと。そして、老人は汐を汲むかと見せて消え失せ。旅僧は清水寺門前の者にその老人こそ融の霊では、と甲斐を勧められる。その夜、旅寝すると、貴人姿の融が現れ、名月のもとで舞をまい、夜明けと共に月の都へ去っていくのだ。なお、主人公の源融は光源氏がモデルだといわれる。

夏のお楽しみプラスワン① アートな建築空間をガイド付きで探訪しよう！ グランシップ館内見学



ガイド付き見学のモデルコース ①映像ホール→②映像ホール前ロビー→③メインエントランス→④会議ホール→⑤10階ロビー→⑥展示ギャラリー→⑦交流ホール→⑧大ホール回廊→⑨大ホール4階席→⑩3階ロビー→⑪大ホール1階席→⑫中ホール 所要時間約1時間15分。都合により短縮も可能。人数をとりまとめて、事前に予約を。問い合わせは、静岡県文化財団総務課：TEL054-203-5713まで。

グランシップの設計者は、世界中からオファーが相次ぐ磯崎新氏。そして、ロタイプやサインデザインを手掛けたのは、スペインのデザイナー、マリスカル氏。バルセロナ五輪のスポートコート”の生みの親といつうビッグな顔合わせが再びグランシップで実現した。巨大な船にも似た外観もさることながら、豊かな感性と緻密な計算が見え隠れする内部も、一見の価値あり。空間設計の見事さ、細部へのこだわりは想像以上である。もちろん館内のあちこちで出会うマリスカル氏らしいのびやかなサインも見逃せない。そこでオススメしたいのが、ガイド付きの館内見学である。案内してくれるのは、グランシップのサポーターのみならず、普段は見ることができない部分も解説付きで覗くことができる。とあって、企業団体をはじめ、幼稚園や小学生、お年寄りグループまで、申し込みが続き、この夏休みにぜひ、と思つ人は人数をとりまとめて事前に予約を。



講師 観世芳宏 観世芳伸
 二人の兄は、観世流二十六世宗家観世清和。昨年の『グランシップ静岡能』における能舞台のこけら落としでの宗家による『翁』は記憶に新しいところ。



夏のお楽しみプラス・ワン② おいしい夏メニューで待ってます! カフェテリア&レストラン

グランシップを訪れたら、ぜひ、立ち寄っていたきたいのがココ。建物の南側、エントランスと静岡芸術劇場入口との間にあるカフェテリア『燦』とレストラン『オアシス』。それぞれ白にブラウンを基調にしたインテリアで落ち着いた雰囲気。待ち合わせに、腹ごしらえにゆったりとした時間が過ごせる。ココでしか味わえないメニューも豊富で、ご覧のように夏メニューも登場。また、クローズタイムを利用したパーティをはじめ、ケータリングなども受け付けているので気軽にご相談を。

カフェテリア 燦

AM9:30 ~ PM7:30

中世の貴婦人たちが愛したほのかな甘味のケーキとドリンクがセットになったルネッサンス風中世ケーキセット(900円)が大好評のカフェテリア『燦』。そんな『燦』のとびきりの夏メニューが「スープ・オブ・フリュイ(写真) フルーツのスープにカット・フルーツが盛りだくさんのデザートで、パリのカフェの夏の風物詩ともいわれるだけあって、見た目も小粋で涼やか。また、密かな人気を呼んでいるハーブティー(350円)も、夏からパリエーションがより充実されるとのこと。日本平で自家栽培されるハーブだけにこちらも楽しみだ。



パッションフルーツのスープにグレープフルーツ、メロン、オレンジ、ストロベリー、ブラックチビオカなどが入った「スープ・オブ・フリュイ(600円)は夏一番のオススメ。

レストラン オアシス

AM11:00 ~ PM9:30 (PM9:00オーダーストップ)

静岡県の旬の食材を和風、洋風にアレンジし、香草を効かせた地場産オリジナル・ランチ(1,400円〜)をはじめ、週替わりランチ(1,000円)や多彩なオードブルが人気のレストラン『オアシス』から、この夏、爽やかに「海鮮冷麺(写真)が登場。海老、ホタテ、ワカメをはじめ、トマトなど野菜もたっぷりの贅沢なこの一品はヒット間違いナシ。また、7~8月に限り、生ビール(17:00 ~ 500円)を一杯200円(税込)でサービス。夏の喉も待ってました!とばかりに喜びそう。



具だくさんの「海鮮冷麺」は8月末までの夏季限定メニュー。マンガープリン、コーヒーが付いて1,000円はかなりおトク。

親子のサイエンススクール

~宇宙船「地球号」に乗って~

8/13(日)

■PM1:30開場 PM2:00開演

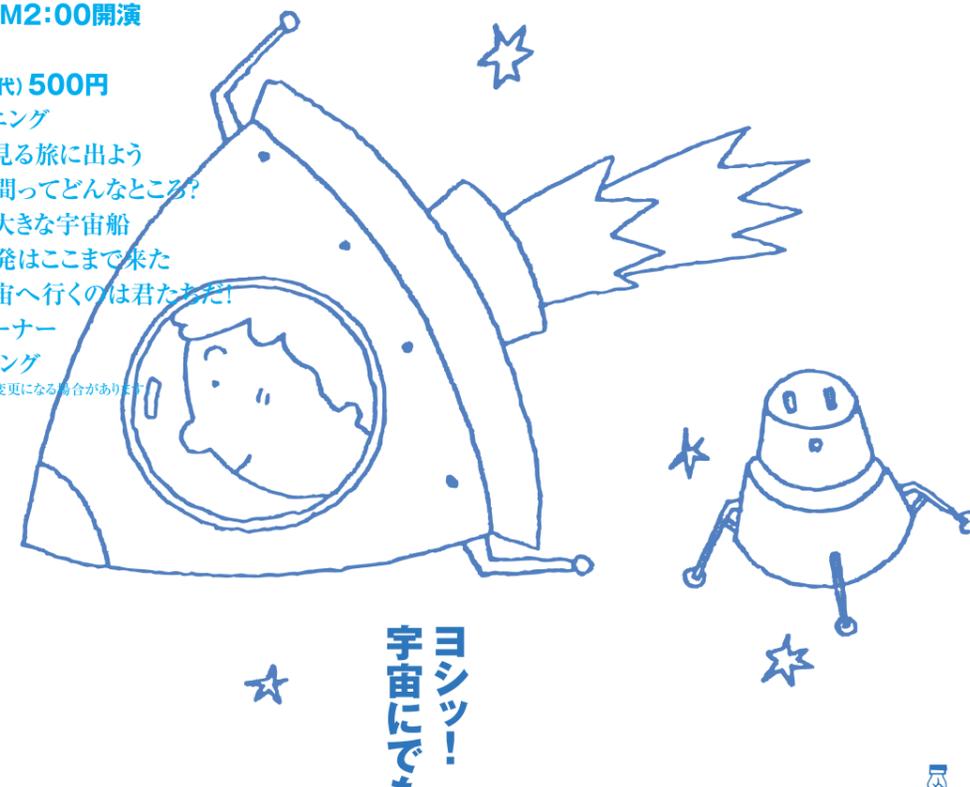
■会議ホール・風

■全席自由(税込・資料代)500円

プログラム ・オープニング

- ・地球を見る旅に出よう
- ・宇宙空間ってどんなところ?
- ・地球は大きな宇宙船
- ・宇宙開発はここまで来た
- ・次に宇宙へ行くのは君たちだ!
- ・質問コーナー
- ・エンディング

※一部内容が変更になる場合があります



ヨシッ! 今年の夏は思いきって
宇宙にも行ってみるか。

地球は丸い地球は回っている。人工衛星で確認できる今ではそれを疑う人はいないけれど、最初にきっぱりそう言い出した人はエライ。そう思って調べてみると、古代ギリシャ時代にはすでに地球の円周を算出していた人がいたりしてビックリ。アメリカの教育者「ユイ」は『科学における偉大な進歩は、新しい大胆不敵な想像力からもたらされる』と言い、

地球の大きさは? 月の大きさは? 地球から月までの距離は? それらについて1億分の1の世界で考えたり、その距離感を体感したり。ついでにこれから自分がちが乗るスペースシャトルという乗り物についても勉強したり。そして、「地球を見る旅」に出発したらさっそく宇宙から地球を眺めてみる。大型スクリーンに映し出されるのはNASA、NASDAの臨場感あふれる資料映像。金星や火星に比べて、地球だけがなぜこんなに青く美しいのだろう。そんな疑問をもとに、水と大気の謎を解き明かしていくわけだが、「ここにもいるんな仕掛け」というか、実験が用意されている。もちろん無重力空間の不便さについても触れたり、引く張ったり、目で確かめたり、五感をフルに使って楽しく勉強できる場所がいっぱい。このほか、今も注目を浴びる国際宇宙ステーションや日本の宇宙開発についての最新のニュースあり、日本人宇宙飛行士からのメッセージありと、子どもばかりか大人にとっても興味深い内容がいっぱい。スクール最後には、中村先生から全員にちゃんと修了証が授与される。

でもおなじみの中村浩美氏だ。「私たちの地球は水と生命にあふれた星。それはもしかしたら太陽系の奇跡の星なのかもしれない。だから、地球のこと、宇宙のことをもっと知ってほしいのです。21世紀にはおそらく人類は科学技術によって宇宙空間やほかの星へと活動の場を拡げていくことになる。サイエンススクールでは、そんな未来の夢を担う子供たちに科学や宇宙のおもしろさを少しでも伝えられたら、と思います。新しい発見との出会い、科学する楽しさを親子でぜひ体験してください」と氏は語る。

さて、実際のスクールはというと、宇宙へ飛び出す前に、まず、地球がどんな星なのかを知るところから始

めていく。地球の大きさは? 月の大きさは? 地球から月までの距離は? それらについて1億分の1の世界で考えたり、その距離感を体感したり。ついでにこれから自分がちが乗るスペースシャトルという乗り物についても勉強したり。そして、「地球を見る旅」に出発したらさっそく宇宙から地球を眺めてみる。大型スクリーンに映し出されるのはNASA、NASDAの臨場感あふれる資料映像。金星や火星に比べて、地球だけがなぜこんなに青く美しいのだろう。そんな疑問をもとに、水と大気の謎を解き明かしていくわけだが、「ここにもいるんな仕掛け」というか、実験が用意されている。もちろん無重力空間の不便さについても触れたり、引く張ったり、目で確かめたり、五感をフルに使って楽しく勉強できる場所がいっぱい。このほか、今も注目を浴びる国際宇宙ステーションや日本の宇宙開発についての最新のニュースあり、日本人宇宙飛行士からのメッセージありと、子どもばかりか大人にとっても興味深い内容がいっぱい。スクール最後には、中村先生から全員にちゃんと修了証が授与される。

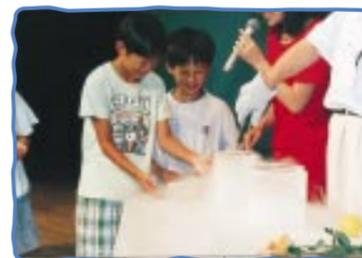
お待ちかね! 夏休み向け特別プログラム。

8月12(土)・13(日) **ハイビジョンシアター**

■2階映像ホール ■入場無料

アニメや文化芸術作品、大自然ドキュメント番組などをおどける「ハイビジョンシアター」では、夏休みに合わせて子ども向けプログラムで開催。150インチの大画面は迫力も満点。開催中は自由に入場できるので、お気軽にぜひ。

- ①大自然スペシャル「巨大彗星と皆既日食 ~厳冬のモンゴル高原~」
- ②「カウントダウン 若田光一さん宇宙への旅立ち」
- ③宇宙から見た地球「~シャトルに載ったハイビジョン~」



【中村浩美】
科学ジャーナリスト。科学に関する執筆活動をはじめ、キャスター、TBSラジオ『全国子ども電話相談室』の回答者としても活躍。近年は宇宙開発委員会専門委員も務める。著書に『宇宙開発がよくわかる本』『火星雑学ノート』など多数。

日本フィル夏休みコンサート

in GRANSHIP
～音楽の国へようこそ～
8/25(金)

■PM2:15開場 PM3:00開演
■大ホール・海
■S席 前売大人3,000円(当日3,200円) 前売高校生以下1,800円(当日1,900円)
A席 前売大人2,300円(当日2,500円) 前売高校生以下1,400円(当日1,500円)
B席 前売大人1,500円(当日1,700円) 前売高校生以下1,000円(当日1,100円)
■全席指定(税込)4歳未満入場不可

プログラム

- 第1部 管弦楽の楽しみ
・バーンスタイン:ミュージカル「キャンディード」序曲
・デュカス:交響詩「魔法使いの弟子」
・ビゼー:「アルルの女」より「メヌエツト」「ファランドール」
- 第2部
・モーツァルト:オペラ「魔笛」
(日本フィル夏休みコンサート オリジナル版)
- 第3部 日本フィルの演奏にのって みんなでうたおう
・南の島のハメハメハ大王
・ふるさと
・だれにだってお誕生日
・気球にのってどこまでも

出演

指揮:高関 健
お話と歌:江原陽子(第1部、第3部)
構成:久岡 昇(第2部)
歌:久岡 昇/パバゲーノ(バリトン)
猿山順子/パバゲーナ(ソプラノ)
小林晴美/バミーナ(ソプラノ)
管弦楽:日本フィルハーモニー交響楽団
合唱:静岡音楽館AOI合唱クラブ

女』。2つの組曲からなるこの劇音楽のうち第二組曲から、ハープの伴奏に乗ってフルトが有名な旋律を美しく奏でる。メヌエツトと、劇のクライマックスにあたる村人たちの華やかな踊り歌うシーンが描かれた「ファランドール」が聴ける。物語の舞台である南フランスの田舎の風景などに頭に描きながら耳を傾けると、みずみずしい調べがより豊かに堪能できるはず。

第一部は、今では定番となりつつある日本フィルオリジナル版の「魔笛」。これは「存じの通り、モーツァルトの有名なオペラだが、声をオーケストラのように操るモーツァルトならではの魅力に富んだスペクタクルな作品だ。王子タミーノや夜の女王、高僧ザラストロなど癖のある登場人物が多いが、中でも「魔笛」といえば、鳥刺しパバゲーノ。作品に絶対欠かせないこのキャラクターを今回、久岡昇氏が演じてくれるのも楽しみの一つ。

そして、プログラムの最後、第三部は、みんながうたおうの「うたおう」。誰もが知っている曲をオーケストラの伴奏で、客席のみんなも一緒に歌い、フィナーレへ向かう。最初は椅子に深く腰かけて、開演を待っていた子どもたちも、いつしか前のめりの

姿勢でステージに夢中になり、最後はオーケストラと一つになる…。音楽っていいなと心の底から思えるひとときである。

『魔法使いの弟子』あらすじ
魔法使いの留守中、弟子が「そり呪文を試すと、魔法は見事に成功。罫がハケツで水を汲み始めるが、弟子は魔法の解き方を忘れてしまい、やがて部屋は水浸し。慌てた弟子は罫に斧を投げつける。罫はまっ二つに割れ、水汲みの速さは2倍に。部屋はすっかり大洪水となり、弟子が悲鳴を上げたとき、魔法使いが帰ってくる。先生の呪文で水汲みがびたりと止まり、水は静かに引いていった…。

『魔笛』あらすじ
舞台はエジプト。大蛇に追われ、失神した旅の王子タミーノが夜の女王に仕える3人の侍女に助けられる。女王の娘パミーナの肖像画に一目惚れしたタミーノは、ザラストロの館に幽閉されているパミーナを救出するため、おしゃべりな鳥刺しパバゲーノを従えて館へと赴く。ザラストロのもとでさまざまな試練を乗り越え、ついにタミーノとパミーナ、パバゲーノとパバゲーナは結ばれ、夜の女王は闇へと落ちる。



指揮 = 高関 健



お話とうた = 江原陽子



バリトン = 久岡 昇 (パバゲーノ)



ソプラノ = 小林晴美 (バミーナ)



ソプラノ = 猿山順子 (パバゲーナ)

いろんな楽器がいろんな音色で歌いだす。オーケストラっていいな。音楽っていいな。

毎年、このコンサートの噂を聞くよああもつと、夏休みなんだなあと思つ。今ではすっかり夏の風物詩のようなこのコンサートも、今年で早や26年目だといつ。

人気の秘密は、なんと1つでも半年かけて練るといふその内容。子どもたちを決して飽きさせない構成と仕立て。そして、耳なじみよく、いろんな楽器の音が楽しめる選曲演奏は、もちろん日本フィルハーモニー交響楽団であるからして、聞きこたえは当然十分。デジタル音源が主体の今では、子どもたちの耳もさぞかし肥えてはいるだろうけれど、ナマの素晴らしさにかなづもなシ、である。

それにしてもオーケストラにははかりしれない魅力がある。ダイナミックな響きで聴衆を圧倒しながら、実はそのハーモニーは繊細な音一つ一つから成り立っていて、しかもその調べは、どんなシーンも思いのままに描くことができるのだ。不気味な嵐の夜も、牧場の朝の風景も、お望み次第。指揮者のタクトはまるで魔法使いの杖のように、いろんな楽器からさまざまな音色を引き出

し、あつという間に一つの世界を創りあげてしまつたから、スゴイ。

さて、そんな管弦楽の楽しみをバラエティ豊かにたっぷりとお届けするのが第一部。プログラムはまずバーンスタインの「キャンディード」から始まる。これはフランスの詩人ウオルテールの風刺小説をリリアン・ヘルマンが脚色した「ミツク・オペラ」で、やや高尚すぎたためにミュージカルの興行成績はハツとしなかつたらしいがこの序曲だけは今だに演奏会のアンコール曲としても人気が高い。キャンディードとはそもそも無邪気な人やおぼろちゃんを意味し、深刺としたリズム、洒落たオーケストレーションは題名そのものである。

続く「魔法使いの弟子」は、生涯にわたつた十数曲しか作品を世に送り出さなかつたというデュカスの代表作だ。物語の情景が軽快に描かれた交響詩(文学的または詩的内容を交響管弦楽によつて表現したもので、とくに水かさの増していく場面は、オーケストラならではの醍醐味が味わえる。

そして、3曲目は、歌劇「カルメン」でも知られるビゼーの「アルルの



夏のお楽しみプラン「ファン」③ 隠れた人気スポットが「10階展望ロビー」

ある日、散歩風の夫婦がグランシップに入っていく。と「行くのかな」と思つて後をついていくと、二人は迷わずエントランスからエレベーターで10階へ。そして慣れた様子で自動販売機でジュースを買い、椅子に腰を下ろした。目の前に広がるのは、富士山の美しい末広がりの、ちょうどグランシップの船の先頭が海原よろしく広がる町並に突き出した具合になっている。これはもう格別の眺め。基本的に開館時間中ならいつでもフリーと立ち寄れるので、散歩「10階」のロビーを加えるというアイデアはなかなかのヒットではないかと思つ。遠くを眺めると、この行爲には、今ハヤリの癒し効果もあるらしい。ちなみに夜は9時30分まで利用できる。夜景を楽しむのも一興。どこかで花火などが上がれば、それこそ儲けモノである。



ちょっとしたサロンの雰囲気展望ロビー。 利用時間 / AM9:00 ~ PM9:30

県民の日記念グランシップ特別公演 ヨーヨー・マ ミレニアムコンサート

The Silk Road Project

YO-YO MA

MILLENNIUM CONCERT

with New Japan Philharmonic



シルクロード
悠久の道 東と西、音の旅・人の旅

繊細だけれど、どこか大らかな空気を孕んでいて、やさしくて、懐深くて…。
しかも彼の調べはいつだって聴衆を置き去りにしたりはしない。
彼のほうからそっと近づいてきて、
遥かな心豊かな世界へと連れ去ってしまうのだ。

ヨーヨー・マ YO-YO MA 現代最高のチェリスト。1955年、パリで台湾系中国人の両親のもとに生まれる。4歳で音楽家の父からチェロの手ほどきを受け、6歳にしてパリ大学で初リサイタルを開く。1962年に家族でニューヨークに移住。7歳からヤナーシュ・シュルツに、9歳から16歳までをレナード・ローズといった名匠たちに師事。8歳でチェロの神様パブロ・カザルスに認められ、全米ネットのテレビにバーンスタインの指揮で出演。16歳でハーバード大学に入学し、社会学とドイツ語を学ぶ。卒業後、本格的な演奏活動を始め、1978年にはエンブリー・フィッシャー賞を受賞し、世界に注目される。以来、世界一流のオーケストラ、指揮者との共演のほか、ソロ・リサイタル、室内楽など、過密スケジュールをこなしている。



パブロ・カザルス PABLO CASALS
1876 - 1973年。今なおチェロの巨匠、チェロの神様と呼ばれるチェリスト。ヨーヨー・マがライヴワークしているパッハの『無伴奏チェロ組曲』は、カザルスが13歳のとき、故郷バルセロナの楽器店で見つけた。研究し、紹介したことによって世に送り出されたもの。



リベル・タンゴ LIBERTANGO
アストル・ピアソラの名曲中の名曲。某ウィスキーのCMでヨーヨー・マが弾き、話題になった。アルバム『ヨーヨー・マ・プレイズ・ピアソラ - SOUL OF THE TANGO -』では、ピアソラのかつての仲間たちと共演している。

「ヨーヨー・マがやって来る！」 この

ニュースにどれほど多くの人が歓喜したことだろう。人気、実力ともに現代最高のチェリストが再び日本に、それも静岡のグランシップにやって来る。日本では『ライヴ・コマーシャルでピアソラの『リベル・タンゴ』を弾く彼の姿が映し出されてからというものも、もちろんタンゴブーム、ピアソラ人気もいくらか手伝ったにせよ、それまでクラシックなど聴いたことのない人たちの耳までグイと傾けさせてしまったのだから、さすがに『ヨーヨー』と言わざるをえない。何はともあれ、彼が今、来日をもっとも熱望される音楽家であることは疑うべくもないだろう。

6歳で初リサイタル。7歳でジュリアード音楽院に入学を許され、8歳にしてチェロの巨匠パブロ・カザルスを唸らせたほどの天才。けれど、彼にはしかめつらしい大音楽家的な匂いは微塵も感じられない。それどころか、彼が纏う空気はいつもしなやかで『ユートラル』だ。

昨年、ニューヨークのイエロー・キャブのトランクに愛用のチェロを置き忘れたというニュースが世界中に流れた。そのとき、私たちはそこに気さくで人柄のよさそうな二人の演奏家を見た。無事に愛器を取り戻し、詰め掛けたテレビカメラに「みなさん、どうもありがとう」と自分の失態に半ば照れながら、けれど彼は心の底からうれ

しそくに手を振った。時折フツと胸を撫でおろす仕草までサーブして。そうした彼の心は、決して古色にまみれたクラシックの巨匠のものではない。素のままの彼の笑顔は、とてもチャーミングであり、彼が奏でる音色そのものとした感がある。繊細だけれど、どこか大らかな空気を孕んでいて、やさしくて、懐深くて…。しかも彼の音楽はいつだって聴衆を置き去りにしたりはしない。彼のほうからそっと近づいてきて、そして、知らないうちに私たちの心を魅了し、遥かな心豊かな世界へと連れ去ってしまうのだ。

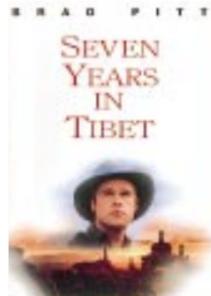
これまでに発表したアルバムは50枚以上。普通1万枚で大ヒットといわれるクラシック界で、昨年『ヨーヨー』は日本だけで100万枚以上を売り上げた。アメリカ最大の音楽賞として名高いグラミー賞はすでに13回も受賞している。このように彼が一つの作品を発表するたびに話題を呼ぶのは、演奏のクオリティ、完成度の高さもさることながら、そこにいつも新たな試みやクリエイティビティがあるからにほかならない。

たとえば、パッハの『無伴奏チェロ組曲』のプロジェクトを見てもそれがわかる。4歳のときから1回に2小節ずつ弾きはじめたといふこの作品は、チェロのソロの楽曲の最高峰といわれ、ヨーヨーのライヴワークともいっぺきものでもある。その作品を彼は12年ぶりに再録音し、発表した。が、

それだけではなく、全6曲をそれぞれ異なるジャンルのアーティストたちとコラボレートし、映像化したのである。それは、『インスパイアード・バイ・パッハ』というタイトル通り、パッハにインスパイアされたヨーヨーによる『無伴奏』に対する既存の概念を打ち破る試みであった。ちなみに、監督はカナダを代表する6人が担当し、第5番では日本の歌舞伎俳優東玉三郎と共演。1996年度のダンススクリーン最優秀賞を受賞した。

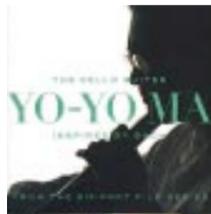
また、ヨーヨー・マの名は映画のクレジットの中に見つけることもできる。『ブラッド・ピット主演の映画『セブン・イヤーズ・イン・チベット』がそれである。オーストリアの登山家ハインリヒ・ハラーの波瀾万丈の人生の軌跡を描いたこの作品で、彼はジョン・ウィリアムズの音楽にチェロの独奏で参加した。中央アジアの聖地で異教、異文化に触れる西洋人の姿は、どこかヨーヨーと重なる。台湾系中国人の両親のもとにパリで生まれた中国系アメリカ人というプロフィールとながら、チェロの調人はチベットの山々を滔々と渡る自由な風のようにであった。

さて、そんなヨーヨーが今、取り組んでいるのが、『シルクロード・プロジェクト』である。シルクロードとは、存知の通り、かつて文明と文物を運び、東と西を結んだ道で遠くギリシア、ローマから中近東、西域、中国、朝鮮を通じて、日本に辿り着く。そんな東西文明交流の道シルクロードを



セブン・イヤーズ・イン・チベット
SEVEN YEARS IN TIBET

登山家ハインリヒ・ハラーの同名の自伝をもとにした1997年のアメリカ作品で、チベットで過ごした7年間の少年期のグライ・ラマとの交流、中国のチベット侵攻などとともに描かれている。音楽を『スター・ウォーズ』のテーマなどで知られるジョン・ウィリアムズが担当。ヨーヨー・マはチェロの独奏で参加し、話題となった。監督 / ジャンジャック・アノー
出演 / ブラッド・ピット、デビッド・シュリス



パッハ 無伴奏チェロ組曲
THE CELLO SUITES/BACH

チェリストの宝物とも呼ばれる作品で、この全6曲を自分のものにしてこそ真のチェリストであるといわれる。実はこの組曲にはパッハの自筆の譜は現存せず、アンナ夫人や数人が残した幾つかの筆写譜があるのみ。ヨーヨー・マの12年ぶりの再録となったこの2枚組のアルバム『インスパイアード・バイ・パッハ』には全曲収められている。また、J・S・パッハの没後250年にあたる今年には、パッハ・イヤーとして数多くのパッハ作品がフィーチャーされているので、いろいろ聴きくらべてみるのもいいのでは。

YO-YO MA

シルクロード・プロジェクト
SILKROAD PROJECT

1998年にヨーヨー・マが設立した非営利芸術文化団体で、歴史上重要な交易路であるシルクロード周辺地域の文化的、知的、芸術的伝統を対象に、さまざまな分野の協力による調査・研究を推しすすめることを目的としている。第一線で活躍するアーティスト、演奏家、学者を招き、世界各地でイベントを展開。2002年の夏にはアメリカ・ワシントンで『スミノニアン・フォークライフ・フェスティバル / シルクロード・プログラム』が予定されているほか、アルバムなども随時発表される。

YO-YO MA

MILLENNIUM CONCERT

with New Japan Philharmonic



G 県民の日記念グランシップ特別公演
ヨヨー・マ ミレニアムコンサート
 YO-YO MA MILLENNIUM CONCERT
 with New Japan Philharmonic
 conducted by Kazuhiro Koizumi
 シルクロード
 ～悠久の道 東と西、音の旅・人の旅～

8.20.SUN. PM1:00開場 PM2:00開演
 ■大ホール・海
 ■全席指定(税込)
 SS席15,000円 S席12,000円 A席10,000円
 B席7,000円 C席3,000円

主 催／(財)静岡県文化財団
 共 催／静岡新聞社・SBS静岡放送
 後 援／静岡県、静岡県教育委員会、静岡県文化協会
 協 力／全日空、ソニー・ミュージックエンタテインメント
 特別協賛／ヤマハ株式会社
 企画協力／ミュージックプラント

〈お問い合わせ〉
 グランシップインフォメーションカウンター TEL054-289-9000

現代の視点から見つめ、そこに残っている、あるいは埋もれている文化を再発見して「ヨヨー・マ」のプロジェクトでは、芸術担当ディレクターであるヨヨー・マを中心に21世紀のシルクロードともいえる、音楽による文化交流の道づくりをすすめている。

そして、そんな彼の「ミレニアム」に賛同して、今回「ヨヨー・マ ミレニアムコンサート」が開かれることになった。折しも翌日8月21日は県民の日。まさにそれは2000年といふ千年紀に県民におくられるヨヨー・マからのプレゼントといえるかもしれない。

プログラムはチェロの魅力がたっぷり楽しめる4作品で、指揮は小泉和裕、管弦楽は新日本フィルハーモニー交響楽団が務める。が、その前にクワンシン・プなどは、ビッグなお楽しみをたっぷり教えよう。実は演奏に先立ってほんのわずかな時間ではあるが、ヨヨー・マ自らによるプログラム

の解説を交えた「プレトーク」が用意されている。先さくで「サバーブ」精神も茶目し気もたっぷりなヨヨー・マの「こと、き」と楽しいトークを披露してくれるに違いない。

さて、プログラムはまずストラヴィンスキーの公的なデビュー曲ともいえるバレエ組曲『火の鳥』から始まる。この組曲には1911年度版と1919年度版、1945年度版の3つがあるが、今回演奏されるのはもっともポピュラーな1919年度版である。不気味な静けさで始まる序奏、

「プレトーク」はまずストラヴィンスキーの公的なデビュー曲ともいえるバレエ組曲『火の鳥』から始まる。この組曲には1911年度版と1919年度版、1945年度版の3つがあるが、今回演奏されるのはもっともポピュラーな1919年度版である。不気味な静けさで始まる序奏、

「プレトーク」はまずストラヴィンスキーの公的なデビュー曲ともいえるバレエ組曲『火の鳥』から始まる。この組曲には1911年度版と1919年度版、1945年度版の3つがあるが、今回演奏されるのはもっともポピュラーな1919年度版である。不気味な静けさで始まる序奏、



交響曲1997 SYMPHONY 1997
 1997年7月1日、香港の中国返還に伴い、中国政府からの委嘱で譚盾が作曲。ヨヨー・マのチェロの独奏で始まるこの壮大なシンフォニーは、国際的な評価を得た。香港フィルハーモニー管弦楽団、イブス(葉氏)児童合唱団とともに、2400年前の伝説の編鐘(それぞれ異なる音高を出す65個の鐘を並べたもの)が出土以来初めて演奏され、話題を呼んだ。



ストラヴィンスキー
 IGOR STRAVINSKY
 1882～1971年。ストラヴィンスキーといえ、今回の『火の鳥』に始まり、『ペトルーシユカ』『春の祭典』と続く三大バレエのほか、『オルフェウス』『結婚』など、バレエ・レパートリーの多い作曲家として有名。

プレトーク PRE-TALK
 ヨヨー・マによる上演プログラムの解説などを交えたプレトーク (PM12:30開場 PM1:00開演) にチケット購入者の中から抽選で500名を招待する。希望者はチケット購入後、往復はがきに住所・氏名・性別・年齢・チケット席番を明記し、下記あて郵送のこと。締切は7月22日当日消印有効。なお、結果は返信はがきにて連絡。
 〒422-8005 静岡市池田79-4
 (財)静岡県文化財団「ヨヨー・マ プレトーク」係

小泉和裕 KAZUHIRO KOIZUMI
 東京芸術大学指揮科に学び、ベルリンのホッホシュレにてオペラ法の研鑽を積む。第3回カラヤン国際指揮者コンクール第1位入賞。その後、ベルリン・フィルをはじめ、国際的に活躍。東京都交響楽団の首席客演指揮者を務める一方、各オーケストラに客演指揮者として招かれ

新日本フィルハーモニー交響楽団
 NEW JAPAN PHILHARMONIC
 1972年、小澤征爾のもと自主運営のオーケストラとして設立。優れた企画と充実した演奏に定評があり、国内外の公演で数多くの成功を収めている。定期公演では小澤と華やかなソリストとの共演が目され、また、声楽・舞台作品や今世紀の作品を重視した独自路線を歩みながら、演奏活動を展開している。

譚盾(タン・ドゥン) TAN DUN
 1957年、中国は湖南省省スマオに生まれる。幼少を宗教色(道教)の濃い祖母の田舎で過ごし、シャーマニズム文化の中で育つ。北京大学に8年間学び、1986年、周文中(作曲家)の招きでアメリカに渡り、コロムビア大学で学んだ。中国で幾つもの国家的作曲賞を受賞。ほかにも野賞、ハリウッド賞、ドレスデンのウェーバー賞などを受賞。ニューヨーク在住。



Program-1 ストラヴィンスキー バレエ組曲『火の鳥』

Program-2 チャイコフスキー 『ロココ風の主題による変奏曲 作品33』

Program-3 ドボルザーク 『チェロ変奏曲短調 作品104』

Program-4 譚盾(タン・ドゥン) 新曲(予定)

ドボルザーク ANTONIN DVORAK
 1841～1904年。『新世界』や『ユーモレスク』と並んで有名な『チェロ協奏曲短調』は、ドボルザークが3年間のアメリカ滞在から故郷ボヘミア(チェコ)に帰国する前後に書いたものといわれ、帰国後にブラハで改訂、完成された。彼の故郷への思いとボヘミア的な民俗性が色濃く表れた作品である。



チャイコフスキー
 PETER IL ICH TCHAIKOVSKY
 1840～1893年。チャイコフスキーにはチェロ協奏曲がなく、一般に「ロココ」と呼ばれるこの変奏曲も、実は彼に作曲を依頼したチェリスト、フィッツェンハーゲンが勝手に楽譜に手を入れてしまったため、原典とはやや異なるものになっている。とはいえ、バロック時代から古典時代へのチェロの役割を知る上でも重要な作品である。



魔の世界を表す神秘的な調べ、激しくエキゾチックなリズムなど、展開される物語が音の向こうに見えるように、聴きどころの多い魅力たっぷりの作品だ。

続く2曲目はチャイコフスキーの『ロココ風の主題による変奏曲作品33』。これは音大の試験やコンクールの課題曲によく使われるという曲で、「ロココ」を立派に演奏できればプロのチェリストのお墨付きがもらえるというほど、チェロを演奏する人にとっては大切な曲といわれる。ヨヨー・マはロリン・マゼールの指揮、ピツパーケ・シンフォニー演奏会でアルバムを発表し、優雅で小粋な演奏で高い評価を得た。

プログラムの3番目は、すべてのチェロ協奏曲の中で最高傑作といわれるドボルザークの『チェロ協奏曲短調作品104』である。チェロはもちろん、オーケストラとしても聴きごたえがあり、けれど明らかに難しそうなのこの作品は、確かにキング・オブ・チェロ協奏曲の冠にふさわしい。ヨヨー・マは同じくマゼール指揮、ベルリンフィル演奏、但し廃盤(で共演のほか、グルト・マズア指揮(ヨヨー・マフィロ演奏)でもこの作品を発表している。

ラスト4曲目には、譚盾(タン・ドゥン)の新曲が予定されている。多少映画に詳しい人なら、グロウチングタイガーのテーマ曲『シャーン』の作曲家として譚盾を知っているかもしれない。ヨヨー・マはこれまでも何度か彼の楽曲を演奏しているが、

大竹省二



未来完了の瞬間。

「握手している瞬間が現在完了だとすれば、握手しよつと手が差し出されて、二人の目と目が合った瞬間が未来完了。つまり人間のイメージを増幅させる、そつした創造性を含んだ写真であることが大事なんです」

ヒューマン・インタレスト。

今こそカメラは老若男女の手にある。しかし、氏が写真なるものを始めた当時、それは特別な人だけのものではなかった。GHQ広報部写真部員という稀なる経歴を持ち、ロスト・ジャパンの中で銀幕のスターを撮る傍ら、また日本の芸能史にも深く関わってきた氏が見た昭和という時代。それらはすべて印画紙の上に記され、今も見る人に衝撃と感銘を与える。さて、そんな日本写真界の大御所がこのたびグランシップで写真展を開くと聞き、早速、静岡県にもゆかり深い人物、大竹省二氏を自宅に訪ねた。

先生は以前、絵というものは自己の感性で100%表現できるけれど、写真は勘による露出と距離を図るというところがない、

しかし一方では瞬間的な動きを絵にする
と嘘になり、真実の瞬間の記録こそ写真の
面白さであるとおっしゃっていますね。

「写真は大きくすると二つしかないと思っ
ているんです。一つは真実をいかにより真実
らしく表現するかであり、もう一つは嘘
をいかに真実に近く表現するかである。こ
レ、有珠山の噴火をいかに実際以上のイン
パクトでとらえることができるかというこ
とです。一方、嘘を真実に近く表現する写
真というのもある、いい例がお見合い写真
や料理写真などですね。実物以上に美し
く、あるいはおかしそうに撮る。そこにはあ
る程度の嘘が許されているわけです」

ポートレート写真には、図らずも真実
が暴かれるというが、その人の隠れた一面
が窺い知れる楽しみも潜んでいるような気
がします。このことは、裏を返せば、被写
体にとって写真家の視線はときとしてじわ
じわと視線でもある、ということでしょうか。
「だからでしよつとくに女優は構えたこ
ころを撮らないと嫌がるんですね。もちろ
んそういう構えた写真も撮りますよ。で、さ
らに僕はお疲れ様でした」と言いつつ、相手
がふつと気を抜いたところをパパッと撮っ
てしまつ。ある種の賭けみたいなものです
ね。どんなに有名な女優であっても人間に
は違いないわけで、その人間らしさを、ユー
マン・インタレストの部分だけを僕は引き出し
たいと思うわけ。女優という一つの肉体の美
を糧に生きている人たちにはそれが歓迎さ
れない作品であったり、結局発表されずじ
まいでも、僕としてはよしーと思う。何と

いても写真は撮っているときが一番面白い
ですからね。よく写真家は相手に惚れな
きゃダメだと言ったりするでしよつ。でも、
僕は肩の線がキレイだとか、目がいいとか
そういう意味でパーツに惚れてもいいんだけ
ど、精神的に惚れてしまつてはダメだと思
いますね。相手がモニターだろうが、誰だろ
うが、ワクワクしたりはしない。相手が素
人の場合と同じ感覚で「コトワルなキモチ
で撮る」ということを大事にしています」

戦後、アメリカ文化史においてフォ
ジャーナリズムは重要な役割を果たしてき
たといわれています。とくに向こうの俳優
たちは、それによって社会的評価が左右さ
れるという点で、自分のパブリシティには
とても神経質だったようですが。

「そのあたりのことを話せば、日本とアメ
リカではその差はもう、歴然ですね。アメ
リカやヨーロッパで仕事するとよくわかるん
だけど、写真家も含めてジャーナリストは
向こうでは重要視されている。もちろん写
真家イコール芸術家、という考え方は異
なりませんがね。おしやる通り、とくにアメ
リカではレポーターや写真家が発表するパ
ブリシティによって、その人の社会的地位は
かなり左右されますから美に大事にされま
すし、ある意味で敬意も払われている。そう
いう点では、残念ながら日本はまだまだで
しよつ。それでも、かつて国税局で写真家と
いう職業をどう扱っていたかわからず、左官
屋や水道屋と同じジャンルに分類していた
時代もありましたからね(笑)。どう説明
しても、写真館と写真家の違いがわかつても
らえなかつたり。それに比べたら、随分社会

的に理解されるようになったといえますが、



氏の自宅には自作の絵のほか、オブジェも
見られる。

日本のグラフィ誌。

アメリカにはライフ『フォーチェン』と
いった有名なグラフィ誌がありますが、それ
らと日本のグラフィ誌との違いはどのあたり
にあるとお考えですか。

『フォーカス』が発刊されるまで、僕自身
相談を受けたたりしたんです。最初はユー
ズウィークのような雑誌を創りたいとい
ふ、そういうことだったんですね。がしかし、商
業ベースに乗らなかつた。最初の発行部数
は20万部くらいだったと思いますが、少
り言つて思つたほど売れなかつた。それがあ
るとき、ロキード事件があつて、田中角栄
の法廷写真が載つたんです。するとドーン
と売れた。結局、日本はスクランダルで売
国なんです。ある雑誌の編集長が僕に言
たんですが、マスコミは美空ひばりと小林旭
との離婚によって変わった。つまり結婚
の記事よりも離婚の記事のほうが遥かに
売れたという、そういう事実によってスク
ランダル重視のグラフィ誌になったといつた
わけ。そもそも日本の週刊誌は世界でも特異な
形態をとっているでしよつ。例えばグラフィ
の女の子の裸があつて、ページをめくると日

本の総理大臣の顔が載つたりする。(笑)
しかも一般の読者はそれについて何とも感
じない。日本人は商業主義のもとでどん
どん鈍感になっていくような気がしますね」

「世界の音楽家、シリーズなど、女優さ
んのほかに、音楽家から作家、政治家と
さまざまな職業の方々が撮られています
が、生業から来る空気の違いみたいなもの
をレンズの向こうにお感じになることはあ
りますか。

「人間というのは同化性が強い動物です
からね。知らないうちに自分がいる畑の顔
になつてくる。これは写真をやるとよく
わかります。ユーフェイスの頃はどつてこ
このない女の子だったのに、映画に出るうち
にどんどんスターらしくなつていくし、音楽
家たちは音楽家らしい空気を持っている。
音楽家といえば、彼らは音で生きている人
たちでしよつ。だから、カメラの音なんて彼
らにとって音以外の音、雑音以下なんです。
とくにシャッターの音は高周波ですから、と
ても嫌がりますね。だから、僕はメーカー
にフィルムを巻き上げる音はできるだけ小
さくしろ、と。メーカーというのは機能の開
発には力を入れるけれど、そういう人間生
理学的な部分にはあまり熱心じゃない。音
楽家に限らず、記者会見などであれだけの
カメラが集まる、結構すごい音でしよつ。
そういう音に関して写真家が配慮するの
ではなくて、メーカーが配慮すべきだと思
いますね」

先生はよく、人物写真というのは現在
完了の時点でとらえるのでは意味がない、
未来完了の姿でなければいけない」とお
っしゃっています。

「ユーエス写真はすでに起きたユースをど
うインパクトある写真で伝えるかというこ
となんだけど、映画のエンディングはこの先
どうなるんだろつと、という余韻が大切な
ですね。決してそこでスルと終わりにし
ない。人物写真の場合も、例えばお弁当を食
べる人がいて、その人が実際に食べている写
真よりも、今まさにお弁当の包みを広げよ
うとしている写真のほうが伝わるものがあ
る、ということなんです。また、握手のシー
ンを撮るなら、握手している瞬間が現在完
了だとすれば、握手しようとして手が差し出さ
れて二人の目と目が合った瞬間が未来完了
というわけ。つまり人間のイメージを増幅
させる、そういう楽しさでしよつが、創造性を
含んだ写真であることが大事なんです。よ
うして最後は、このたひのグラフィックで
の写真展開催に向けて、ひとことをお願い
します。

「僕は人の履歴というものを気にしない、
というよりそんなものは信用しないタチで
すから、自分の過去を振り返ることもあ
り好きじゃありません。ところが今回はど
ういう風の吹き回しでしよつが、写真展をや
ることになりました。(笑) まあ、静岡県
人ですから、故郷への恩返しのもつもりでね。
幸いなことに僕が写真を撮始めた頃と違って、
最近は大々さんの人が写真を撮るようになって
なつていますし、僕の弟子にも何人かいます
が、プロの女性写真家も増えていきますから
ね。今回の写真展も単なる作品の展示だけ
でなく、幅広い楽しみを盛り込んだ多彩な
企画で協力できたらと思っています」

【おたけしょうじ】

写真家。40年、上海の東亜文書院に学ぶ。42年に応召、44
年、北京の日本大使館報道部付となる。46年、GHQ広報部嘱
託アーニーパイル劇場の写真部員となる。50年にINP通信社に
入社、同年フリー。戦後次々と来日した外国人音楽家を撮影し、
『世界の音楽家』を発表。その後、女性のポートレート、ヌードな
どを主な題材として作品を発表。71年にはテレビで素人女性の
ヌードを美しく撮り、話題となる。代表作に『シャネット』『照る日曇
る日』『昭和元禄101人の女』など。20年、静岡県小笠郡大須賀
町生まれ。

一時は絵描きを志したこともあるという大竹氏。バックの絵も氏の作品。

M・モンロー、M・ブランド…懐かしのアーニーパイル劇場。

平野 先生は写真家でいらっしゃるんですが、カメラマンという言い方ではないんですか。

大竹 日本人は大抵「ちゃんじてるんですけど」カメラマンというのには映画のカメラを操作する人で、写真家を英語にするならフォトグラファーですね。カメラマンというのはラテン語で、箱の中の男、ということですね。キャビネットが語源なんです。

平野 まあ、そうですね。ところで先生が写真と写真というものに出会われたのは、いつ頃のことなんですか。

大竹 幼少の頃は虚弱体質で、家の外より家の中にいるほうが好きでね。父親はしきりに外で遊べと言っていますが、チャンバツ（このころが面白いんだろう、なんて思うような子でした）から、父親はなんとか僕を外に出そうと、カメラを買ってくれたわけです。トニーカメラというボックス型の小さなカメラでした。

平野 じゃあ、カメラのおかげで外に出かけるようになった、と。

大竹 結果的にはそうですね。ある日、上野のカメラ屋さんに行ったら、飲んだらおいしそうなお色をした赤と緑の水が店先に置いてある

笑わない男マッカーサーに「スマイル、ジェネラル！」

平野 そういえばマッカーサーもお撮りになってますね。

大竹 彼は笑わない男だから、誰が最初に彼の笑った写真を撮らさうかと、当時、記者団の間ではちよつとした話題だったんです。

で、ある日、マッカーサーが羽田で韓国の初代の大統領を出迎えるというので、僕も出向いたんです。すると、その日は珍しく僕らのほんの5メートル程の場所に彼が立って

てですね。僕はよし！とばかりに最前列に出て、スマイル、ジェネラル！と叫んだわけ（笑）

でも、彼は何度も叫ぶものだから、ついには彼の奥さんが笑いだしてね。それにつられて「ヤリ」とした彼をパッと撮っちゃった。自分としてはやっ

た！と思ったんだけど、後で副官に随分怒られましたね（笑）

平野 でも、その甲斐はありましたよ。でも撮られてますし、先生は写真を通して昭和という時代をすーっ

と見ていられたんですね。

大竹 僕は今になって写真というもの

の価値が少しわかるようになったと思うんだけど、昔撮った写真を見ると、その時代がワッと

て、フィルムを順番に浸けるとネタができるというわけ。で、カメラは何かというと、例のボックス型のカメラでね。へえ、これは面白いぞ、と。それがカメラにとり憑かれるきっかけでしょうかね。でも、自分が写真家になるとは夢にも思わなかったですよ。そんな職業もなかったです。

平野 えっ、なかつたんですか。

大竹 そうですよ。当時、カメラを持つてる人はいても、それは単なる金持ちの道楽で、日本にはプロの写真家なんていませんでしたから。新聞にもあまり写真を載せない時代だったし。

平野 では、先生の中に職業的な意識が芽生えたのは？

大竹 職業意識とか、そういうことではなくてね。戦争に負けて、途方にくれていたある日、記録として焼け跡を撮っていたら、アメリカの将校に出会って、GHQの報道部の仕事を紹介してくれたんですよ。

平野 それで躊躇なく？

大竹 そう。面白そうだと。深く考えずに結構簡単に決めちゃった（笑）その頃、GHQの傘下にアーニーパイルという劇場があったね。アメリカの女優さんたちが遙々慰問のためにやってくる、この劇場に出てたんですが、彼女たちが撮るのが僕の仕事だったわけ。

甦る。人生を止めることはできないけれど、写真だけは人生の時を止めて眺めることができるんですよ。写真にはそういう素晴らしい瞬間があるんだなあ、と。

平野 しかも記憶装置のように、一枚の写真からいろんな思い出を引き出せるという…

大竹 そういって。単なる記念写真でもね、そこからいろんなドラマを甦らせることができる。僕はつくづく自分はドラマ屋だと思っ

てますよ。

平野 ところで私も行った先々で写真を撮られる機会がだんだん増えてきたんですけど、お撮りになる方が私自身を撮りたいんだな

と思うときと、ある風景の中に女性がいて、そういう景色を撮りたいんだなと感じるときがあつて、私としてはその場でどんな風にしていたらいいんだろう、と。プロのモデルじゃないので、いつも悩んでしまつたんです。

大竹 僕はね、よく新人の女優さんたちに言つたんですよ。撮られると思わなくていい。ほかのことを考えていなさい、と。カメラを見ないで、僕の耳や肩を見てなさい、と言

つと、カタさもとれて、大抵いい写真が撮れますね。ペテランになると、カメラとマイクの位置を見ただけで、いい角度のいい表情を向けられるようになるんですけどね。

大竹省二

平野啓子

KEIKO HIRANO

人生を止めることはできないけれど、写真だけは人生の時を止めて、眺めることができますよ。

記憶装置のように、一枚の写真からいろんな思い出を引き出せる。これも写真というものの素晴らしさですね。



大竹省二写真展

静岡県出身で、日本を代表する写真家大竹省二氏の作品を展示するとともに、ワークショップ等を開催。また、ペンタックスカメラ博物館の協力により、歴史的なカメラを一堂に「カメラの歴史展」を併催。7月15日(土)~30日(日) グランシップ6階展示ギャラリー、グランシップ広場 一般：当日800円(前売600円) 高校生以下無料 くわしくは、P23をご覧ください。



【ひらのけいこ】 かつて、都の文化イベントのプロデュースを経て、『おはよう日本』などNHKのニュースキャスターに、大河ドラマ『毛利元就』の「語り」を担当し、情感豊かな語り口で好評を得る。語り芸術家としても舞台、テレビで活躍。舞台の語りで、平成9年度文化庁芸術祭大賞を受賞。現在、NHK総合『どんとこい民謡』BS『素晴らしき音楽仲間』出演中。静岡県沼津市生まれ。

平野 でも、なぜ日本人の先生が？ しかも民間人でしょう。アメリカ人の写真家はいなかったんですか。

大竹 これは後で聞いた話ですが、兵士たちの間では女優さんたちが奪い合いになるといつか何かとトランプのタネが尽きないらしいんですね。そこへきて、写真家というのは彼女たちに最も近づける人間なわけ。その点、ジャップなら安心だろうと。当時、アメリカの女性には日本人男性とつきあうてはいけない、というお触れがGHQから出てましたから。

平野 その結果、撮影された相手というのが、これまた実に錚々たる顔ぶれですよ。

大竹 モンローにしろ、マローン、

平野 わかりました。耳ですね。覚えておきます。(笑) そういえば、先生はお花もたくさん撮られてますよね。

大竹 ですが、僕は花の作品はあまり発表しないんです。

平野 あら、それはなぜですか。

大竹 トレーニングのために撮ってるだけなんです。花というのは自然が生んだ造形美ですから、記録性の点から言つと花には時代がないというか、神武天皇の頃の菊と今の菊とはそう変わりがありませんからね。あまり重要ではないと思うんです。でも、絵に描いたり、レンズで覗いたりしながら、その造形美をどうアレンジするかという、そういう感性のトレーニングにはなるんですね。

平野 まあ、先生ほどの方でも

日々そんな風にトレーニングされているのですか。先生のキモチはいつも前へ前へと向いているんです。

大竹 だから、本当は今回の写真展のように、過去を振り返ったりするのはあまり好きじゃないんです。(笑) 弟子たちによく言つていますが、お前たちは時代についていけない写真家になりたいというがそれは違う、時代を創っていく人間になれ、と。

平野 本当にそうですね。今日は私個人的にもためになるお話がたくさんうかがえて、とても楽しかったです。

大竹 いやいや。女性は見られて、撮られて、美しくなりますからね。啓子さんもどんどん撮られて、もっと美しくなるといいですよ。

平野 はい、頑張ります。(笑)